



入間野 愛

狭山市立入間野中学校便り

令和4年度9月号

発行者 和田 雅士

入間野中生の品性を高める9月の行動目標

「友達の心が温かくなる言葉を遣おう」(他者への気遣い)

楽をしないからこそその楽しさ

長い夏休みが終わり、生徒は新たな気持ちで2学期を迎えていることでしょう。一学期の終業式で生徒に話したのですが、一つは「『2022年今年の夏はこれをやった』と言えるものを見つけてください。自分にとって意味のある夏にしてほしい」と話しました。保護者の皆様もお子さまの夏を振り返ってみていかがでしょうか。お子さまは、それなりに何かをつかむ、意味のある夏の時間を過ごせたでしょうか。入間野中の生徒なら、全員が個人差はあるかもしれないけれど、目に見える何か、目に見えない何かをつかみ、意味のある夏の時間を過ごして始業式を迎えたと信じています。

さて、2学期はご存知の通り、学級、学年の所属感を体感することのできる体育祭、音楽会など学校行事が多く、自己有用感や達成感を味わえる機会が多い学期です。同時に気候も過ごしやすい季節となり、学習が充実し、学力を一層伸ばすことのできる学期です。しかし、楽に学力が上がることなく、2学期を学力を伸ばす時機としてとらえ、実践できるか否かは本人次第です。

先日、テレビで日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」に心血を注ぐ職人の特集番組を観ました。世界的にもその芸術的価値が評価されている刀匠による日本刀の制作に欠かせない唯一無二の素材が、たたら製法でつくる「玉鋼(たまはがね)」だそうです。良質の玉鋼をつくるために(今年はコロナ禍で年に1度限り)12人の職人が集まり、村下(むらげ)と呼ばれる棟梁を中心に、3昼夜交替制で火力(木炭)と空気の流れの調整、砂鉄の投入を行っていました。今の時代、機械やAIを活用すれば、火力や空気の調整など効率的にできそうなものの、それらを一切使わず、窯を粘土で作るところから、火をおこし、窯の火を調整する、砂鉄の投入、ノロ(鉄滓)の排出など全てが手作業で、五感で感じ、経験をもとに調整していくという決して楽ではない工程でした。デジタルで便利な時代になぜそこまで苦労するやり方で行うのか。番組の中で印象的だった言葉を紹介します。

「楽をしないからこそ味わえる楽しさがある」

もちろん、もの作りですから、手作業で丹念に仕上げたものの味わいは、デジタルでつくるものに勝るといえるのでしょう。ただし、この言葉には、それだけではなく、人として生きることの本質が表れているように感じました。楽ではないけれど、手作業で時間をかけて苦労しながら進めていく過程が楽しいということでしょうか。これは人類に生来備わる本能的に求めるもので、人間が人間たるゆえんの営みなのだろうと思います。

子どもの勉強や私たちの日々の営みにも当てはまることのように思います。学習や生活の中へのデジタル機器の導入によって、遠く離れた世界のことがとても身近にリアルに体験できるようになっています。また、物事が効率化され生産性は上がっています。しかし、もしかしたら本当の楽しさを味わう機会は減ってきているのかもしれない。勉強は、まだ知らないことを知る、知らないことを研究することであり、苦労して調べたり、考えに考えて答えを導きだしたり、解決策をさぐるプロセスが楽しいものなのでしょう。

2学期の教育活動では、ICT導入の教育効果を認めつつも、子どもたちが本来の勉強や教育活動の「楽をしないからこそ味わえる楽しさ」を体現させられるよう努めていきたいと思えます。ご家庭でも「楽をしないからこそ味わえる楽しさ」という視点で子どもたちを支援していただけるようご協力をお願いします。

二学期の主な学校行事

9月17日(土)	体育祭	11月 1日(火)~8日(火)	三者相談
9月25日(日)26日(月)	新人体育大会	11月12日(土)	さやまっ子教育の日 いるま路祭
10月11日(火)12(水)	中間テスト	11月22日(火)24日(木)	3年生期末テスト
10月15日(土)	狭山市中学校駅伝大会	12月 1日(木) 2日(金)	1,2 年生期末テスト
10月28日(金)	校内音楽会	12月 8日(木) 9日(金)	3年生進路相談

